

異文化コミュニケーション学科の外国語選択について

国際コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科
関連科目担当教員一同

国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科への合格おめでとございます。本学科では、異文化理解と世界各国の文化への関心を深め、コミュニケーション力を高めるために、全員が英語およびもう一つの外国語の 2 言語を学ぶことになります。**ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、コリア語の 5 言語から希望言語を 1 つ選択**し、英語とあわせて必修科目として履修することになります。選択した外国語圏もしくは英語圏のいずれかが留学先（2 年次前期）になりますので、**入学までの間にどの言語を選択するのかをしっかりと検討しておいてください**。

言語選択と留学のスケジュールは概ね下記のとおりです。

- 1 年次 4 月第 1 週目 オリエンテーション期間中に「希望選択言語」を届出
- 1 年次 4 月 7 日（火）以降 授業期間の開始とともに選択した言語の科目を受講
- 1 年次 7 月頃 留学先の希望届を提出
- 1 年次後期 留学先の言語の科目をより多く集中的に学修
- 2 年次前期 留学（行き先により留学期間は異なります）
- 2 年次後期以降 選択科目として各言語を履修

特に以下の点に注意してください。

- 入学した 4 月に外国語を選択した時点で、2 年次の留学先はその言語圏か英語圏に限られます**。たとえば中国語を選択したら、留学先は英語圏か中国語圏になり、その他を異文化コミュニケーション学科の留学先にはできませんので、**言語の選択はよく考えて行なってください**。
- 入学前にこの用紙の各言語の説明を熟読するのももちろんのこと、自主的に情報を収集し、各言語や留学先の国や町について積極的に調べて、言語選択に役立ててください。なお、留学先の機関等については、以下の言語別の説明文の中に記載されていますが、各国・地域における新型コロナウイルス感染症の状況等により変更になる場合もあります。
- 希望選択言語の届出方法は、4 月の学科ガイダンスでお知らせします。

ドイツ語

ドイツ語を学んで**“真のグローバルな人材”**になりましょう！

ドイツ外務省によればドイツ語の母語話者は約 1 億人で、世界的に見るとフランス語やスペイン語と比べて多くはありません。しかしヨーロッパに限定してみるとドイツ、オーストリア、スイスなど 6 か国で公用語となっておりヨーロッパで最も話されている言語です。インターネット上での情報量も多く、世界的に最も重要な言葉の一つです。日本語や英語だけでなくドイツ語も理解できると、その先に圧倒的に広い世界がひらけます。

「ドイツ語学習者」は世界で約 1540 万人いて、その数は増加傾向にあります。なぜ「ドイツ語」を学びたい人が増えているのでしょうか？ それはドイツ、そしてドイツ語圏の国々が持つ影響力が大きいからです。ドイツの GDP は世界第 3 位、ヨーロッパでは第 1 位であり世界有数の経済大国です。オーストリアやスイス、そしてリヒテンシュタインなどのドイツ語圏の国々も、国としては小規模ですが個人の GDP は日本をはるかに凌ぎます。ヨーロッパの「中欧」に位置するドイツ語圏は、言語・文化・経済・政治・歴史のいずれにおいても、東欧・西欧・南欧・北欧との関係が不可避です。ドイツを知ることなくヨーロッパや EU を理解することは出来ません。そして EU を理解せず国際情勢を的確に捉えることは不可能です。

ドイツ語を学ぶべきもう一つの理由は「ドイツは日本との良い比較対象」だからです。日本もドイツも世界有数の経済大国であり、国土面積・人口に関しても、ほぼ同程度と言えます。国の規模や生活レベルが似ているため、生じる問題にも類似性が見られます。ドイツを知ることによって日本を客観的に見る事が出来るようになり、日本を知ることにも繋がります。

ドイツ語選択の留学先はドイツ中部ザクセン州の大都市ライプツィヒです。ライプツィヒは、バッハ、メンデルスゾーン、シューマンが活躍した音楽文化都市であり、旧東ドイツ時代は東欧圏の「文化のショーウインドー」、1989 年のドイツ再統一を導いた民主化運動の「英雄都市」であり、現在でも多くの「メッセ（見本市）」が開かれる流通や経済の中心です。もう一つの留学先、マルティン・ルター大学はザクセン=アンハルト州の大学都市ハレに校舎があり、中央広場には中世の街並みが残ります。ライプツィヒとも近く、文豪ゲーテやシラーの生家のあるヴァイマール、デザインと建築で有名なバウハウスのあるデッサウ、国会議事堂、博物館、美術館、劇場などの政治・文化施設が多数あり、多様な移民文化の入り混じる首都ベルリンも遠くはありません。

歴史、文化、経済、政治など様々な分野で世界をリードするドイツ、興味が湧いてきましたか？ 大学でドイツ語を学び、世界と日本の実情を理解し、日本を世界に発信できる“真のグローバルな人材”をめざしましょう！

フランス語

フランスは近代ヨーロッパをリードした国であり、その言語であるフランス語は長らく、ヨーロッパ世界の共通語としてのステイタスを持っていました。そのために政治、外交、そして文化の面で常に重要な役割を果たしてきました。現在の世界のコミュニケーションツールは英語ですが、フランス語が重要だった時期に培われた多くの制度や文化には、今でもフランス語が息づいています。たとえば、長さの単位である「メートル」を制定したのはフランス人です。現代社会の基準となる文化を生み出したヨーロッパの中心にいたのが、フランスなのです。

フランスは、「人権」という私たちの現代社会の基礎となる大切な考えを打ち出した最初の国でもあり、人道支援の考えが社会に根付いています。紛争地などでの医療活動で知られる「国境なき医師団」を組織したのはフランス人ですし、「点字」を生み出したのもフランスです。また、女性が早くから社会に進出した国でもあります。フランス語はいわばヨーロッパ、そして現代の社会と文化を深く理解するための土台となる言葉だといえるでしょう。

今日でも郵便制度やオリンピック、国連の公用語、さらに料理や美術、映画やファッションといった分野はフランス語が重視されるケースが多々あります。気が付かない間に、皆さんもフランス語を耳にしています。たとえば「レストラン」や「カフェ」、「パティシエ」、「アトリエ」、「デッサン」、「モード」、「シネマ」などはフランス語由来の言葉です。とくに、文化的な領域におけるフランスの役割は大きく、日本からも多くの画家や芸術家がフランスに行って、華やかな文化を吸収してきました。クラシック音楽の青春漫画『のだめカンタービレ』の舞台もパリでした。

さらに本国だけではなく第二次世界大戦後に独立したさまざまな地域でも、フランス語は重要な役割を果たしています。とくにアフリカ諸国とカリブ海地域の理解にフランス語は欠かせない言葉です。またカナダでもケベック州を中心に、フランス語は公用語になっています。このように、フランス語は今でも実用的であり、多文化共生を担い続けている言葉なのです。

フランス語はときに難しいと言われますが、動詞の使い方などの最初のハードルをクリアすれば、あとは規則性の正しさから、マスターする道は意外に平坦です。発音もマスターするのは大変と言われますが、コミュニケーションで十分に通じるフランス語を話すハードルは意外に低いものです。慣れてくれば、フランス語の柔らかな響きが皆さんの生活に潤いを与えてくれるでしょう。ぜひ、カフェのテラスに座ってフランス語を話している自分の姿をイメージしてみてください。

皆さんが 2 年次に留学する研修校は、フランスのトゥーレーヌ語学センターとマリー&ルイ・パスツール大学から選べます。トゥーレーヌ語学センターのあるトゥールは、街を流れるロワール川沿いに現在も数多くの古城が残っていて、世界文化遺産に指定されています。マリー&ルイ・パスツール大学のあるフランシュ=コンテ地方はスイスに近く、豊かな自然と歴史的な町並みも美しく、おいしいソーセージや芳醇なコンテチーズでも世界的に知られる地域です。両者ともに、フランス語とフランス文化を学ぶには最適の留学先です。このチャンスに、皆さんの世界を広げ、現代社会に生きるフランス語にぜひトライしてください。

中国語

中国語は、世界のコミュニケーションにおいて重要な言語です。世界の各地に多くのスピーカーがいます（日本国内だけで約 80 万人）。もちろん最大なのは中華人民共和国で、人口は日本の約 12 倍です。中国語にはいろいろな方言がありますが、私たちは中華人民共和国で共通語とされている北京方言を基礎とする中国語（「普通話」）によるコミュニケーション能力の育成をめざします。

中国語は、すべて漢字で書かれていますが、現在の日本語の漢字とは相違するものが多くあります。中国語で使う漢字には 2 種類あり、日本語の漢字より簡略された形の「簡体字」と、日本でもかつて使われていた古い形の「繁体字」があります。たとえば「音楽」は、簡体字では「音乐」、繁体字では「音樂」のようになります。このうち私たちはまず簡体字を習得します。

また、漢字は一字ずつ発音が決まっています。発音のパターンは全部で約 407 種あり、これをローマ字で表記した発音記号を習得します。漢字には一つずつイントネーション（上がったりがったりする変化）があり、大雑把に言って、高い音のまま、低い音のまま、低い音から高い音へ、高い音から低い音へ、という 4 種類があります。このため、発音記号にはイントネーションを示す「声調記号」がつき、これを習得しなければなりません。

中国語の語彙には、日本語と共通するものが非常に多くあります。「音楽」「教室」「黒板」「運動」「発音」など、多くの単語が日本語と同じ意味です（だから発音できなくても意味がわかることが多い）。これは、日本語が中国語を大量に吸収しているからだけでなく、中国語が日本語の単語を大量に吸収しているからです。

このような中国語と中国関連科目を、三人の教授を中心に、合計十人余りの教員スタッフが教授していきます。教員スタッフは、すべて中国の言語文化系の専門家で、大学の授業のほか、研究成果の社会への発信もおこなっています（たとえば、ツイッターで「専修大学国際コミュニケーション学部中国研究室（自営）」を検索してみてください）。

中国語をメインに学修しようとする異文化コミュニケーション学科の学生は、1 年次に半年で完結する 10 科目の中国語の授業を受講して基礎を固め、2 年次の前期に上海あるいは台北の大学の語学コースに留学し、2 年次後期以後、中国の言語文化関連の科目を選択して学び、ゼミで自分の専門的な研究を深めて「卒業研究」を完成させることができます。

中国語で築かれてきた文化や文明は、日本文化の基礎ともなっています。また最近では新しく高度な学術や文化・芸術が中国語で書かれたり語られたりしています。たとえば映画などの映像文化の世界でも、ハリウッドと競うほどに中国の製作と市場が大きな存在になっています。日本との貿易や人材交流・観光の増大など、中国語コミュニケーションの重要性と文化理解の必要性は高まるばかりなのです。

英語プレイスメントテストについて

4月1日(水)に実施されるオリエンテーション・ガイダンス終了後(12:00頃を予定)、自宅のパソコンにて当日17:00までに英語プレイスメントテスト(約1時間)を受験してください。 なお、オリエンテーション・ガイダンス日程の詳細については、3月中旬に本学ホームページに掲載します。
--

この結果は、1年次に履修する専門英語科目のクラス分けに使用されます。テスト時間はガイダンス、サンプル問題、本試験合わせ、最大で60分です。自動採点システムにより受験後、結果を確認することができます。

コンピュータを使用しインターネット接続によるオンラインテストでヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)準拠のスコアにより、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能に加え、文法力や語彙力の総合点を測定、自分の英語スキルの強弱が確認できます。

英語プレイスメントテストは受験者の解答によって次に受ける問題が変化していくアダプティブ方式のテストで、スピーキング力も含めた総合的な英語力を測定します。多岐にわたる出題をオンラインで自動提示するテスト方式のため、回答の正誤に応じて問題形式が変わります。選択問題、穴埋め問題、誤文訂正問題、読解問題、会話聞き取り問題、会話書取り問題、描写問題、復唱問題、画像選択問題など、多岐にわたる問題が出題され、受験者のレベルを精密に把握していくことで、より正確な英語力を測定することができます。

受験時に、約10分間のガイダンスがあります。ログイン、パスワードの確認、音声やマイクなどの機器チェックの後、サンプルテストを受けてください。前述の多岐にわたる問題が出題されますので、それに答え、問題形式を確認してください。サンプルテストの後、続けて約30分の本試験を受験します。

本試験での問題は飛ばさず、急がずにしっかり答えて進める様にしてください。重要なのは、多数の問題数をこなすことではありません。問題にしっかり答えて正答率を上げることが好成績を上げる鍵になります。スピーキングでは、しっかり声を出し、滑舌良く答える様にしてください。囁く様な声や、ボソボソ話す様な声だと、採点されないことがあります。試験が終了したら、スキルプロファイルを見ながら、自己診断し、試験結果を確認します。

受験に際しての詳細は、オリエンテーション・ガイダンス時にお知らせします。

スペイン語

スペイン語は、フランス語・イタリア語・ポルトガル語などと同じく、ラテン語に由来する言語です。スペイン語の大きな特徴は、日本語話者にとって格別に発音が易しいという点です。日本語とほぼ同じ5つ(a(ア), i(イ), u(ウ), e(エ), o(オ))しか母音がなく、「子音+母音」の組み合わせが多く見られます。そのため、日本語のローマ字読みと同じになる単語が多く、発音の習得が容易です。つづり字と発音の関係も規則的ですので、学習を始めて2週間もあれば、ほとんどどんな単語でも正しくきれいに発音できるようになります。

現在、世界には5億人を超えるスペイン語の話者がいて、今世紀半ばには7億5千万人に達するという試算がなされています。英語に次ぎ、アラビア語を凌ぐ国際語で、もちろん国連の公用語にもなっています。世界最大のスペイン語圏の国はメキシコ(約1億3000万人)です。コロンビア(約5000万人)、スペイン(約4700万人)などがこれに続き、ラテンアメリカを中心に世界20か国の公用語となっています。スペイン語を学べば世界のいくつもの国や地域へ旅行できたり、複数の、異なる文化にじかに触れたりすることが可能になります。また、アメリカ合衆国にも数多くのスペイン語話者(推定6000万人)がいます。したがって、現代アメリカ社会をより深く理解するにはスペイン語は必要不可欠な言語です。

本学科の必修クラス(1年次前期・後期)では、スペイン語の基礎的な文法事項をひと通り理解・修得し、きちんと自己表現できる力を養うことを目標とします。スペイン語圏への留学を目指すクラス(1年次後期)では、ネイティブ教員の授業を中心に実践力を高めることを目的としています。本学科のスペイン語科目を担当する日本人教員には、ネイティブ同様にスペイン語を操る先生を揃えています。

スペイン語圏の中で最大の人口を有するメキシコ合衆国が本学科の主たる留学先です。日本の約5倍という広大な国土を持つメキシコは、21世紀に有数の経済大国に成長する潜在力を持つNEXT11(ネクスト・イレヴン)と呼ばれる国の一つであり、G20(主要20か国)の一角です。留学先は、グアナフアト大学とメキシコ国立自治大学です。グアナフアト大学(1732年創設)はグアナフアト州の州都グアナフアトにあります。ユネスコ世界遺産のこの都市は「メキシコで最も美しい街」と呼ばれ、学生が多く住み、文化事業に力を入れているコロニアル建築の美しい町で、安全面においても留学に適した場所です。また、グアナフアト州とその周辺には、主に自動車関連の日系企業が数多く進出しており、日本との繋がりも強い地域です。加えて、本学科では、ラテンアメリカのトップレベルの大学で、キャンパスそのものがユネスコ世界遺産に登録されているメキシコ国立自治大学(1551年創立、メキシコ市)にも留学することができます。また、メキシコに加え、本学科ではスペインにも留学先を設けており、スペイン南部のアンダルシア自治州グラナダ市のグラナダ大学)も留学先となっています。歴史的豊かさを持ち、文化的多様性が際立つスペイン語圏での研修は、実り多い学びの機会になるはずです。皆さんの五感を総動員して臨みましょう。

コリア語

東京から韓国の首都ソウルまで飛行機で約2時間。韓国は日本から最も近い外国で、近年はK-POPやドラマの影響で韓国の文化も身近なものになりました。日本では朝鮮半島で使われている言語をめぐって様々な名称があり、「韓国語」「朝鮮語」「韓国朝鮮語」「コリア語」などと呼ばれています。基本的にはこれらは全て同じ言語で、専修大学では「コリア語」という名称を使用しています。

コリア語は固有の文字「ハングル」で表記します。1446年朝鮮第4代国王の世宗大王が「訓民正音」という名で公布したことを記念して、韓国では10月9日を「ハングルの日」としています。ハングルは、漢字のような表意文字ではなく、音を表す表音文字です。ローマ字と同じく子音を表す文字と母音を表す文字がありますが、母音の種類によって左右、または上下に組み合わせていきます。日本と同じ東アジアの漢字文化圏ですが、日常使うのはほぼハングルのみなので、コリア語の学習はハングルとその発音を覚えることから始まります。

文法構造はどうでしょうか。例えば、日本語で「私はまいにち新聞を読みます」というのをコリア語では「나는 매일 신문을 읽습니다」と書き、「ナ-ヌン メール シンムン-ウル イク-スムニダ」と読みます。「ナ」は「私」、「ヌン」は「〜は」、「メール」は「毎日」、「シンムン」は「新聞」、「ウル」は「〜を」、「イク」は「読み」、「スムニダ」は「ます」です。日本語と同じように考えればよいので簡単です。他に、助詞と「ます」のような丁寧語があるところも日本語と同じで、例にある「매일(メール)」「신문(シンムン)」のように日韓では共通の漢字語がたくさんあります。しかも、ほとんどの漢字は読み方が一つしかないので、少しの努力で語彙を増やすことができます。

コリア語を効率よく学習するために、異文化コミュニケーション学科では前期の週3回の授業で文字と発音をしっかり覚え基本的な活用を学びます。後期は変則活用を中心に中級の文法を学習し、簡単な文章を読んで理解できる程度の力を身につけます。韓国に留学予定の人たちは、日常生活に必要なコミュニケーションを中心に実践的な学習を進めていきます。

コリア語圏の留学先は延世大学、ソウル大学、梨花女子大学です。どちらの大学もコリア語教育の伝統と歴史があり、世界各国から集まった人々とコリア語で交流を深めることができます。また、これらの大学が位置するソウルは、朝鮮時代の歴史を感じられる場所、博物館、美術館が充実していますので、韓国語と韓国文化を学ぶには最適な環境です。

コリア語は韓国のみならず、朝鮮半島、中国、中央アジアそして日本でも話されている使用人口世界15位以内の大言語です。授業で学んだコリア語を使って、現地の人、世界の人々とのコミュニケーションを楽しみましょう！